

政策提案書

令和5年11月11日

とっとり未来創造タスクフォース

MIRAI SOZO TASKFORCE

【移住・定住】

“移住検討者の心をわしづかみ” 成功事例を参考にした移住プロモーション強化事業

タスクフォース実施
既存施策への提言

課題

鳥取県の移住の
アピールポイントが明確でない

→魅力が具体化できていない

→子育て施策が移住検討者に伝わっていない



① プロモーション強化

タスクも一緒に検討します！

◆ 鳥取県の良さを再定義する **ブランディング戦略を検討**

…移住に関連する部署(輝く鳥取創造本部、子ども家庭部、商工労働部、教育委員会等)が連携して実施

◆ ブランディング再構築に向けて、既存の広報物やHP、SNS等を点検

◆ 子育て世代の移住検討者が重要視する子育て環境、教育環境、居住環境等に重点を置く

② 移住相談体制の強化

県や市町村の施策情報などを相談窓口や関係団体間で共有し
移住検討者に魅力や情報を的確に提供する体制を強化 等



“Teenの心をわしづかみ” 若者Uターン・定住推進機能の強化、関係人口ツールの構築

既存施策への提言

出身地への愛着や、出身地を離れる前に地元企業についてよく知っていた者ほどUターン希望が強い(独)労働政策研究・研修機構による調査結果)

- 課題**
- 県内には働き口がないというイメージや鳥取の魅力を認識しないまま大学進学・就職をきっかけに若者が流出
 - 関係人口の見える化やデータ蓄積が出来ていない

提言

① 若者Uターン・定住推進機能の強化

- ・県出身学生の県外流出動向のとりまとめ等を実施
- ・**教育委員会を中心に**、知事部局、地域、地元企業等で連携を強化



② 関係人口ツールの構築 (目的に沿った改修が可能であれば「とりふる」改修も選択肢の一つ)

- ・関係人口が鳥取県とのつながりをつくり、持ち続けるためのプラットフォームとして機能
- ・関係人口のニーズやデータを蓄積し、効果的な情報発信や有効な施策検討に活用



課題・背景

- 遊び場をはじめとした子育て情報が行き届いていない 【県民の声】「子どもを遊ばせられる施設が少ない」、「なぜ子育て王国なんだろう・・・」
- 子育てに対するネガティブイメージが先行しすぎている可能性

提言

タスクも一緒に検討します！

① 子育て王国サイトの充実

- ・県の子育て情報総合サイトとして改善
- ・子育て世代へしっかりと情報の届くサイトに改修



支援施策

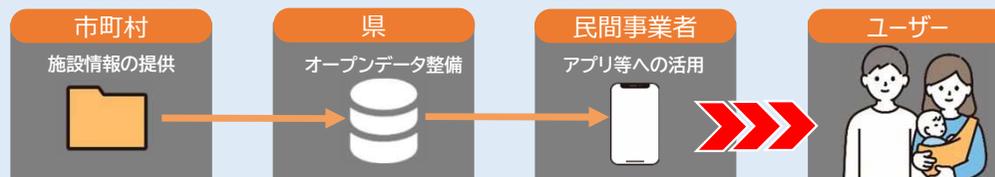
子育ての魅力

etc...



② オープンデータの活用

- ・広く活用できるデータの整備 (例: 公立の児童関連施設 等)
- ・民間事業者の提供するアプリ等との連携を促進



※既存施設、制度を十分に活用した上で、それでもなお不足する施設、制度があれば必要に応じて検討が必要

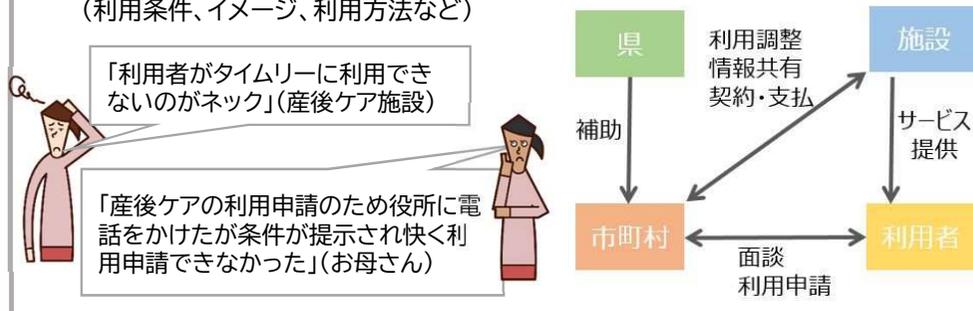
産後ケア制度の仕組み見直しを検討

継続検討中

既存施策への提言

現 状

- ◆ サービス利用までに時間と手間がかかっている
- ◆ 利用までに心理的、制度的にハードルが高い (利用条件、イメージ、利用方法など)



提言の方向性

- 利用までの **手続きの簡素化、利便性向上** に向けた鳥取県モデル検討 (市町村による利用前面談の簡素化、利用可能施設の拡大、利用申請方法の簡易化 等)
- 県内の産後ケア事業実施施設間の **情報交換の場** を設定

誰でも利用しやすい産後ケア制度にすることで
母親の孤立防止へ



手続き簡素化により・・・
「ハイリスク産婦を優先し
にくくなる」
「市町村が産婦の状況を
把握しにくくなる」
などの問題
→ **慎重な検討が必要**



1. 課題・背景

人口減少を抑制するため「移住・定住」、「出会い・子育て」をはじめとする、喫緊の地域課題に対応するための政策はこれからも検討すべき。
一方で人口が減少したとしても住みやすい、魅力的な鳥取県を形成するための政策を、30年後を生きる若者世代だからこそ考えていく必要がある。
そこで、若者世代が「未来創造」に向けた基盤となる「未来への見通し」と「コミュニティ」を生み出すための施策を実施する。

2. 事業内容

ワイガヤしながら
鳥取県の未来を考える若者を発信

県民参加&公開型！
企画会議ラジオ

概要

とっとり若者活躍局をはじめ、鳥取県の若者世代が今後の地域の姿について議論し、発信するラジオ番組(コミュニティFMとの連携)を企画・放送する

番組概要

ON AIR

<放送スパン>
週1回 (R6.1月末以降を想定)

<内容>

- 🌿 U35ゲストと鳥取県を盛り上げるアイデアなどをトーク
→若者の声として未来予想図やその他政策に反映
- 🌿 若者活躍局メンバーの活動など
県内若者世代の動きについても発信

若者世代の
サードプレイスを創出

若手社会人が繋がる
U35交流会

概要

県内において繋がりの少ない20~30代の若手世代が、企業・団体の垣根を越えて交流するイベントを実施し、県内若年層のコミュニティ形成を進める

課題

コロナ禍で県内企業が繋がる機会が激減
県内中小企業では同期・同世代の社員が少ない
若手社員が自社の在り方を考える機会が少ない

想定される効果

- ✓ 若手社員を媒介した県内企業の横の繋がりが再構築
- ✓ 切磋琢磨できる若手社員同士の接点創出
- ✓ 若手社員の自社理解・情報発信の促進

若者世代みんなで
鳥取県の超長期ビジョンを描く

若者世代・関係人口と創る
鳥取県30年後の未来予想図事業

概要

予想される未来やあるべき姿などをわかりやすく示した「鳥取県2050年の未来予想図」を若い県民や関係人口とともに描くプロジェクトを開始する

鳥取県

若者世代との連携

PEST(政治・経済・社会・技術)の変化の兆しを基に議論

自分自身と地域を考えるチャンスに

鳥取県30年後の未来予想図

従来型の政策立案
既存課題に対応する「積み上げ型」

未来型の政策立案
理想像からの「バックキャスト型」
・庁内・政策立案ワークショップ
・ふるさとキャリア教育関連授業等での未来予想図活用を進める

1. 課題・背景

30年後の未来は「描く」だけではなく、実際に目の前で地域が変わり始めるイメージを県民やステークホルダーにも体感してもらうことが重要。そこで**未来創りの第一歩目として基礎自治体や民間企業と連携し、若者世代が具体的な成功体験を感じられる実証事業を開始する。**

2. 事業内容

「テクノロジー」と「若い力」で
地域に未来の姿を実装

自治体若手人材 × ベンチャー
プロトタイプタウン・プロジェクト

概要

人口最少県かつ急速な人口減少・過疎化が進む鳥取県を舞台として、
複数市町村の連携体とベンチャー等民間企業が協働で行う
地域の共通課題の解決に向けた実証・実装事業の組成・実行を後押しする



起業体験を通じて
地域の大人とのネットワークを構築

地域が繋がり支える
学生向けお試し社長プログラム

概要

大学生等の将来的な県内就職・定住に向け、リアルなビジネス経験を通じて、
鳥取県の企業や人々に対する繋がりを深めてもらうことを目的に、
期間限定の「お試し起業」をサポートする取組を実施

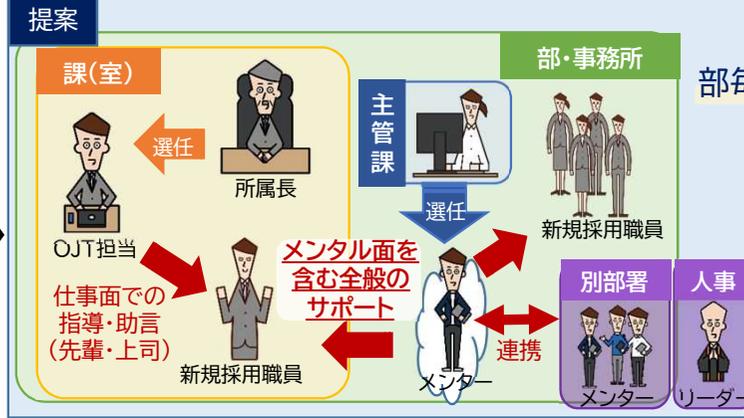
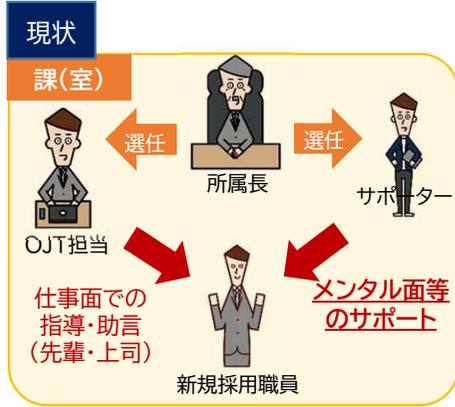


【県庁改革】

新採サポーター改革 ・ 人事評価制度改革 ・ 情報発信体制の強化

既存施策への提言

1. 県庁の新規採用職員育成制度の改革



配属された環境に左右されない!!
ガチャの外れなし

部毎に若手職員の**ロールモデル**となり得る職員(メンター)を
人選し新規採用職員をサポート

- 従来のメンタル面等のサポートだけではなく、業務面の相談も積極対応
※所属職員ではないので、第三者的な立ち位置から助言も行う
- サポート業務を積極的に行えるよう担当業務量に配慮
- メンターの**常駐スペース**設置(メンター内で当番制)
↳ コミュニケーションスペース等を活用
- 中途採用職員への指導等もメンター業務に位置づけ
(ルールやシステムの助言 等)

2. 人事評価制度改革

【現状】 S・A・B・C・Dの5段階評価

課題提起

- 人事評価がほぼ横並びとなっており人材育成・モチベーション向上等につがっていない
- 人事評価が昇任・昇給と連動していない
(補佐級までの昇任は年齢による要素が大きく昇給は横並び)

提案 A評価・B評価を細分化した6段階評価導入
任用・給与への反映を推進



今後、職員へのアンケートにより意識調査実施予定

3. 情報発信体制の強化

【現状】 所属毎での情報発信に関する戦略が乏しい

- (例) ・イベント実施時や制度創設時に限った発信がほとんど
- ・HP上の情報が日常的に更新されていない
- ・発信方法や見せ方等は担当毎のスキル、センスに依存 etc

提案 各部局の広報担当のみで構成する**バーチャル組織**を設置



課題

- 🌀 庁舎に閉塞感があり、県民から暗いイメージを持たれている
- 🌀 他課の職員との交流が少なく、斬新なアイデアが生まれにくい
- 🌀 自分の机以外に仕事をする場所がない
- 🌀 トイレに清潔感がなく、落ち着く場所となっていない



💡 コミュニケーションスペースの設置検討
(県庁改革PTとの共同企画)

スペース内には目的に合わせたブースを設置
…相談ブース、協議ブース、集中ブースなど

※ブースを有効活用するため、職員間のコミュニケーションを促す企画の実施や新採メンター制度との連携も検討



💡 庁舎内壁の塗装
(県庁改革PTとの共同企画)

実証実験を実施予定

庁舎の壁を明るい色調に塗装
…職員、来庁者が気持ちよく利用できる空間に

※さらに開放的な庁舎を目指すため、将来的に廊下と執務室の壁の撤去も検討



💡 トイレ改修

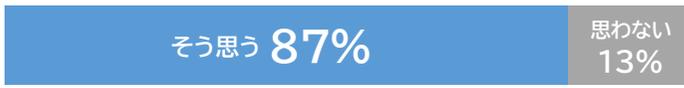
心理的なリフレッシュの場としてのトイレ整備
+民間企業の広告掲載欄の設置
…財源確保のツールのひとつに



庁舎トイレに関するアンケート(R5) ※速報値

本庁・地方機関で勤務する全職員を対象にアンケートを実施

Q.トイレは生理的な要素だけでなく心理的な要素でも必要なものだと思いますか？(回答数458)



Q.庁舎トイレの改修についてどう思いますか？(回答数429)



庁舎利用者の県庁に対するイメージアップ・職員の働くモチベーション向上につなげる

